

# 豊田市民芸館だより

第31号



白釉地花手文陶板 河井寛次郎 1951年 日本民藝館蔵

## 目次

- ・新館長あいさつ／(コラム) 館藏品から…………… 2頁
- ・豊田国際紙フォーラム『IAPMA展』  
『日本の紙と世界の紙展』準備レポート…………… 3頁
- ・特別展「柳宗悦と民藝運動の作家たち」準備レポート …… 4・5頁
- ・民芸の森から ……………… 6頁
- ・令和2年度事業報告 ……………… 7頁
- ・資料紹介・紅葉ウィーク開催のお知らせ ……………… 8頁

# 新館長あいさつ (館長 都筑正敏)

今春より豊田市民芸館の館長を務めることとなりました都筑正敏です。これまで豊田市美術館の学芸員として28年間、主に現代美術の展覧会の企画や作品収集に関すること、そして鑑賞教育の普及活動などに携わってきました。振り返れば、豊田市美術館には河井寛次郎や黒田辰秋といった、いわゆる民藝運動と関わりの深い作家の優品が収蔵されていました。しかし私自身、個々の作家の活動にアプローチすることはあっても、「民藝」そのものについてじっくりと向き合い、考える機会を逸してきたというのが正直なところではあります。

そんな私にも、ここ数年ほど前から「新たな民芸ブームが到来している」と感じる事が何度かありました。民芸を特集した雑誌や書籍の出版、イベントの開催が相次いでいたからです。このような流れが生まれたきっかけのひとつは、2012年、国際的なプロダクトデザイナーである深澤直人さんが日本民藝館の館長に就任されたことにあるでしょう。深澤さんのディレクションによる展覧会が各地で開催され、特に「民藝 MINGEI-Another Kind of Art」展(2018年、21\_21 DESIGN SIGHT、東京)は、民藝の魅力を現代の視点から再発見させる意欲的な展覧会として注目されたのです。

もうひとつ、民芸に風が吹いている大きな理由に思い当たります。それは近年、私たちを取りまく環境や社会構造が劇的に変化したことです。SNSや人工知能といったデジタルテクノロジーの発達によって、人の生活からはますます「もの」の存在感や手触りの心地よさが無くなっています。また21世紀以降、ものづくりの拠点が中国などの海外へと移り、経済活動が生産を主軸とするかたちから、消費をメインとする方向へと移行したことも大きな要因でしょう。私たちの社会はつくり手の顔がまったく見えないものへととなりつつあります。今日の日本で民芸が見直されているのは、その根底にこうした時代の変化に対する危機感があるのではないのでしょうか。

今年は柳宗悦の没後60年。「民藝」という言葉がうみだされてまもなく100年が経とうとしています。1世紀も前に、日常の生活道具の美しさに注目して考案された新しい美の概念が、今なお人々を触発し続けているのは驚くべきことです。

豊田市民芸館では、こうした民芸について、ステレオタイプな伝達にとどまることなく、現代の視点からのあり方や可能性を少しでも発信していくことができたらと考えています。

皆様のご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

※柳宗悦は「民藝」の「藝」の字について、新字体「芸」の普及以後も語源の違いを理由に旧字の「藝」を意識的に使用していました。(「日本の民藝」『柳宗悦全集』第十巻 筑摩書房 P267)よって文中の「ミンゲイ」については、柳宗悦の思想や文化的実践をあらわす場合は「民藝」の字を、柳の思想から発展しつつその波及力や汎用性に焦点を当てる場合は「民芸」の字を使用しています。

## (コラム) 館蔵品から

### 染付田植文そば猪口 (前館長 児玉文彦)

豊田市民芸館のある平戸橋公園は、矢作川のほとりにあり、春は桜、秋は紅葉など四季折々の自然が楽しめます。ここは、平戸橋勘八峡といわれ、美しい峡谷です。民芸館の設立に貢献した、豊田市名誉市民・本多静雄(1898-1999)は「民芸の溪」と呼び、日本一の民芸館となることを願いました。

さて、今回は館蔵の「染付田植文そば猪口」を紹介します。図柄は笠をかぶり蓑の後ろ姿で三人が並び、田んぼで田植をしているところです。そば猪口の小さな世界に描かれた三人の後ろ姿が気になります。意表をつくも優れた意匠で、すっきりした染付の色合いは秀逸です。

平戸橋公園はかつて田や畑だったそうです。紹介したそば猪口のような様子が見られたかもしれません。きっと日本各地でも見られ、かつての日本の原風景の一つであったのでしょう。

そば猪口に関心を持った、民芸運動の創始者・柳宗悦は「肥前の染付猪口」雑誌『工藝』19号(昭和7年7月)で「私が器物の美しさに誘われたのも、これらのものが最初の仲立ちであった。器物への驚きはこの時から始まったのである。私の貧しい蒐集もこの猪口から物語を起した。そうして器物を用いる事に興味を覚えだしたのも、この可憐な焼物からであつた。模様の世界に不思議を感じ出したのも、その様々な絵のお陰である。染付の美しさもここで学ぶ事が出来たのである。もうやがて二十年近くにもなるであろうか。それ以来私の家庭からこの猪口から離れた時はない。私の家のどの客もそれを記憶するに違いない。私達の子供もまた大方その事に一生思い出を抱くであろう。乳に茶に今も日々の相手である。」という記述があります。

私が日本民藝館に仕事で打合せに行くと、そば猪口でお茶を出していただくことがあります。今も柳宗悦の想いが受け継がれているのでしょうか。

これをヒントに、そば猪口の器でのホットコーヒー営業実施と、毎年夏に「そば猪口の絵付け体験」を企画し、実際に生活で使っていただいています。みなさんも挑戦してみてくださいはいかがでしょうか。

資料名  
染付田植文そば猪口  
時代 江戸時代  
産地 伊万里  
法量(cm)  
口径8.0 高さ5.9  
数量 5個  
受入 平成2年  
番号 土320



## 『IAPMA展』

IAPMA (The International Association of Hand Papermakers and Paper Artists) は、世界で最も大きなペーパーハンドメーカーとペーパーアーティストにより構成された国際団体です。隔年で、展覧会やトークイベント、ワークショップを行う“IAPMAコンGRESS”を世界各国で開催しています。2020年には豊田市にてコンGRESSが行われることになり、世界中から参加者の申し込みが殺到しましたが、新型コロナウイルス流行の影響により、コンGRESSは2021年秋に開催されることになり、展覧会以外のイベントはオンラインで行うことになりました。海外作家の来訪は叶いませんでしたが、IAPMA展は豊田市民芸館を中心に、豊田市内3箇所の文化施設で行われることが決定し、準備を進めています。

## 『IAPMA展』開催に至るきっかけ

きっかけは2014年、日本・スイス国交樹立150周年の記念事業として、バーゼル製紙博物館で行われた、『OBARAWASHI』展覧会に、IAPMAメンバーの女性が訪れた時のこと。『OBARAWASHI』展覧会に同行した豊田市小原和紙のふるさと前館長・富樫朗さんは、1998年に行われた京都国際紙会議においてIAPMA展が同時開催された際に彼女にお会いしており、彼女からの要望で小原を案内したことがありました。スイスでの展覧会期間中に、富樫さんと展覧会スタッフと私たちで、彼女の家に招かれた折、当時の話に花が咲き、京都で行われたような紙の国際大会を豊田市でも行えたら、国際交流や小原和紙の世界への発信につながるのではないかと、発想が膨らみました。その後、関係者のご尽力により、豊田国際紙フォーラムを開催する運びとなり、その中のイベントとして『IAPMA展』を行うことが決まりました。

『IAPMA展』では、100点ほどの世界のペーパーアーティストが制作した作品が展示され、その中でも選りすぐられた作品が、豊田市民芸館で展示される予定です。



オーストラリアで行われたIAPMA35周年記念国際展の展示風景

## 『日本の紙と世界の紙展』

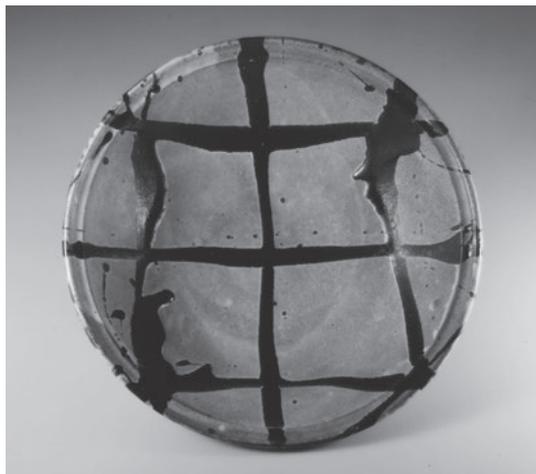
『IAPMA展』と同時に豊田市民芸館の第3民芸館で開催される『日本の紙と世界の紙展』では、日本と海外の優れた紙の展示と、その違いや意外な繋がりを紹介します。また同時期、豊田市小原和紙のふるさとで行われる展覧会では、豊田小原和紙工芸の新作や、小原和紙を使った多様な作品なども展示されます。あわせてご覧ください。(豊田国際紙フォーラムディレクターunit-NAGI)

『IAPMA展』は、他会場の喜楽亭・豊田市民ギャラリーと同時開催。



日本・スイス国交樹立150周年記念『OBARAWASHI』展示風景

# 特別展「柳宗悦と民藝運動の作家たち」準備レポート



白釉黒流描鉢 濱田庄司 1963年 日本民藝館蔵

大正時代末期に、白樺派の同人で宗教哲学者の柳宗悦によって主導された民藝運動。それは、暮らしの中に生きる伝統的な庶民の日常品に至上の美を見出し、その無銘品に民衆的工芸を略した「民藝」という呼び名を冠して従来にない新しい美意識を提示したものでした。柳は、民藝品や、同様の美しさを宿す物を精力的に蒐集し、それらの公開と民藝運動の拠点として、1936年（昭和11）、東京駒場に日本民藝館を開設します。彼は所蔵品が持つ美しさを「美の標準」と捉え、その特質と価値を館としての活動や著作などをおして広く普及させていくのです。

柳宗悦により生み出された「民藝」の考え方は、さまざまな人々や社会に影響を与えていきましたが、彼ひとりの思想だけではここまで広がりを持つことはなかったでしょう。この日本発の独創的な工芸運動は、柳を軸にバーナード・リーチ、河井寛次郎、濱田庄司といった陶芸作家との交友のなかで確立され、飛躍していったのです。彼らは、ともに各地を旅して多くの美しい品々を蒐集すると同時に、積極的に地方の工人との共同制作や指導を行い、工人たちに仕事の指針を示していきます。そしてまた作家たちも民藝品から多くの滋養をくみとりながら、それぞれの信じる新しい表現の道を開拓していったのです。民藝運動の創始に関わったリーチ、河井、濱田、後に参加してきた芹沢銈介や黒田辰秋らは、それまでの日本の工芸界では注目されていなかった民衆の生活雑貨を、自分たちの作家としての作品のモチーフとすることで、工芸界における新しいアプローチを提示したのです。

\*

東京駒場の日本民藝館では開館以来、工人が生んだ新旧の民藝品とともに、民藝運動の作家による作品も常に展示をしてきました。柳はこの二者について、一方には背後にある伝統への依存と実用性を指摘し、他方は創造における独自性と鑑賞品に傾き易い性質をも認め、非個人的な他力の道と、個人的な自力の道とに分けて考察をします。そして作られる量やその価格だけでなく、制作意識の点でも大いに差異があることを示しました。とはいえ両者を、互に矛盾したり反撥したりするものとしてではなく、一つの峰に向う異なる道筋として捉え、頂に到れば会い交えるのだと述べています。

〔「柳宗悦と民藝運動の作家たち」展リーフレットより〕

\*

最晩年の柳は語ります、「民藝館同人の作家達の特質は、その作品の基礎が、何よりも民藝品への敬念に根ざしている点であります。つまり自分達の心の場の至らぬ事を深く内省しつつ仕事を育てているのであります。(中略)決して民藝品と無縁ではないどころか、それにあやかり度いという謙虚な気持ちを、いつも失ってはをりません」。さらに、「私共が民藝館を建てました時、特に一室を同人作家の作品に献げましたのは、もとより作品の美しさを採りあげた事にも由ります



辰砂筒描花文茶碗 河井寛次郎 1950年頃 日本民藝館蔵

が、これら作家の品と民藝品とが、そんなに矛盾するものではなく、却って協調した提携して進むべき方途を示す為でもありました」と記しています〔「作家の品と民藝品」1960年〕。

＊

柳宗悦らが、日常の生活道具の美しさに注目して考案した新しい美の概念は、今なお人々を触発し、私たちの生活文化にも影響を与えています。その一方で、柳が没してから既に半世紀以上の歳月が経ち、この間に作り手を取り巻く環境は、自然や社会情勢、手法やその材料も含め著しく変転しました。今日、



萬籟譜 竹の柵 棟方志功 紙本墨摺 1935年 日本民藝館蔵

柳が願った個人作家の在り方を実現するのは、決して容易ではないことも事実です。「民藝」という言葉が生み出されてか



黄地松竹梅文着物 芹沢銈介 1933年 日本民藝館蔵

ら、間もなく100年が経とうとしている現在、柳とともに民藝運動を推進した作家たちがどのような道をたどり、作品を残したのか、この機会にその行跡を見直すことはたいへん意義深いことだと思います。

本展は、日本民藝館創設80周年特別展の1つとして2017年（平成28年度）に日本民藝館で開催された展覧会を再構成して開催するものです。当館第1民芸館では、民藝運動を牽引した河井、濱田をは

じめ、バーナード・リーチ、芹沢銈介、棟方志功、黒田辰秋の作品を一堂に展覧するとともに、柳宗悦の書や原稿、関係書籍なども展示し、その魅力にせまります。また第2民芸館では、彼らに続く片野元彦、船木道忠、柳悦孝、金城次郎、鈴木繁男、岡村吉右衛門、島岡達三、武内晴二郎、柚木沙弥郎、船木研兒ほかの作品もくわえ、民藝美に触発された作家たちの仕事を紹介する予定です。

国の内外で高い評価を受けている作家たちの作品が集結するまたとない機会です。ぜひご高覧ください。



(都筑 正敏)

線彫魚文抱瓶 金城次郎 1968年 日本民藝館蔵

\*\*\*\*\*

## 特別展「柳宗悦と民藝運動の作家たち」

会期：令和3年10月26日（火）～令和4年1月30日（日）／有料

休館日：月曜日（祝日を除く）、12月27日～1月4日

会場：第1、第2民芸館

出品協力：日本民藝館

※本展の関連事業については、詳細が決まり次第、民芸館ホームページでご案内します。

## 同時開催「柳宗悦と民藝運動の作家たち(館蔵コレクションより)」展

会期：令和3年10月26日（火）～11月28日（日）／無料

会場：民芸館ギャラリー（第3民芸館）

## 冬から春のイベント報告

### ○猿投古窯をバスで巡ろう

令和2年12月12日（土） 参加者：12人

本多静雄氏が発見に携わった猿投古窯について、東郷町やみよし市の窯跡、資料館などを巡りました。学芸員の方の説明や出土品の見学を通じて、参加者の皆さんの猿投古窯への理解が深まったようでした。



みよし市歴史民俗資料館

### ○初春のお茶を一服

令和3年1月23日（土）参加者：30人

民芸の森の管理棟内の和室から初春の景色を眺めながら、同日に始まった「森の本多コレクション展 第3回 日本六古窯-瀬戸」に関連した茶器で、気軽にお茶席を楽しんでいただきました。



管理棟内でのお茶席

### ○文化講座「地域の偉人 前田栄次郎を知ろう」

令和3年3月27日（土）参加者：13人

平戸橋地域の3偉人の1人、前田栄次郎の功績や同氏が寄附した胸形神社と前田公園について学びながら、平戸橋周辺についての理解を深めていただきました。

### ○民俗芸能祭（平戸橋桜まつり2021と同時開催）

令和3年4月3日（土）来場者：約90人

杉本棒の手保存会/石野お囃子保存会/藤沢水神囃子保存会/西山万歳保存会の4団体に出演していただきました。

新型コロナウイルス感染症対策の為、観客席のイスを例年より少なくし、舞台からも距離を取っていましたが、訪れた人は、豊田市各地で継承されている郷土芸能の披露を楽しんでいました。



民俗芸能祭：西山万歳保存会

### ○森のアート展Vol.13「紙絮一苦～紙のある暮らし～」

令和3年5月1日（土）～令和3年6月13日（日）来場者：509人

韓紙工芸作家の藤本由美子氏による韓国の韓紙工芸を元に美濃和紙と韓紙で作った家具や小物を展示しました。韓紙で作る韓紙工芸技法の小物を作成するワークショップも盛況でした。

## 夏から秋にかけての予定

### ○森のアート展Vol.14「光芒につつまれて-新宅雄樹展-」 7月27日（火）～ 9月4日（土）

豊田市出身の抽象油絵画家 新宅雄樹氏による作品の展示。同時期に市内他の会場にて個展等開催。

### ○体験講座「こま犬を作って飾ろう～民芸の森の土で色付けを楽しむ～」 9月5日（日）

こま犬を一对作陶し、民芸の森の土で色付けして焼成。焼き上がったこま犬は管理棟で展示します。  
（展示期間：10月23日（土）～12月5日（日））

### ○本多静雄ゆかりの地を巡るバスツアー 10月14日（木）

今年は、岐阜県美濃地方の本多静雄氏とゆかりのある地を巡る予定です。

### ○民芸の森 観月会 10月16日（土）

「月見・灯り」と「おもてなし」をテーマに舞台、竹行灯や俳句の展示、カフェ等出店を予定。  
今年もNPO法人民芸の森倶楽部へ運営委託をして行います。

### ○森のアート展Vol.15「(仮) とんぼ玉」10月23日（土）～11月28日（日）

民芸館とんぼ玉講座講師 椎葉佳子氏と講座生の作品を展示します。

### ○勘八峡紅葉ウォーキング 11月20日（土）

民芸の森を発着点として平戸橋公園の紅葉と秋の勘八峡の景色を楽しみながらウォーキングします。

（詳細は8P参照）

# 令和2年度事業報告

## 民芸館年間入館者数

19,330人（279日開館）  
（元年度 26,334人）

\*新型コロナウイルス感染拡大の影響により4/11～5/17臨時休館

## 特別展・企画展

特別展1回、企画展3回開催しました。

各展覧会では、実演や体験、ギャラリートークなどを開催しました。

### ◎企画展

#### 「第100回記念企画展「染型紙の技と美－伝統文様から「かわいい」まで－名古屋造形大学所蔵・石井コレクションを中心に」

（第2民芸館）

会 期 3月17日～6月14日

入 館 者 1,599人

（令和2年度分33日間）

関連企画 名古屋造形大学学生型紙  
ポスター「日本の美」展（第3民芸館）  
5月19日～9月30日

同時開催「木工芸 黒田辰秋が集めたもの－黒田家寄贈資料展－」

（第1民芸館）

会 期 3月17日～5月24日

入 館 者 652人（令和2年度分15日間）



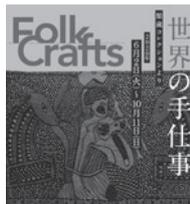
### ◎企画展

#### 「Folk Crafts－世界の手仕事 館蔵コレクションより－」

会 期 5月29日～10月18日（第1民芸館）、6月20日～10月18日（第2民芸館）

入 館 者 4,627人

関連企画 ギャラリートーク、ナショナルデー、カード織体験、関連グッズ販売



### ◎特別展 \*日本民藝館からの巡回展

#### 「柳宗悦と古丹波」

会 期 11月7日～2月28日

入 館 者 2,493人

関連企画 ギャラリートーク



### ◎企画展

#### 「植物文様の民芸」

会 期 3月9日～8月29日

入 館 者 903人（3月末現在）

関連企画 イメージ和菓子販売



## 民芸館講座開催

定例の講座と団体利用による出張講座を行いました。

### 【講座参加者数】 [連続講座]

穴窯陶芸講座	参加者数	71人
ガス窯陶芸講座	参加者数	78人
染織講座	参加者数	48人
絞り染め講座	参加者数	43人
拳母木綿講座	参加者数	29人
トンボ玉講座	参加者数	67人

[体験（親子・成人）225人]

ガス窯8回 穴窯陶芸3回 トンボ玉2回

絞り染め10回 裂織4回

\*糸紡ぎ・機織り体験は、新型コロナウイルスの影響により中止

### 【団体 利用件数・参加者数】

ガス窯陶芸3件 絞り染め3件 茶室利用2件 合計234人

### 【民芸体験・参加者数】

穴窯陶芸、狛犬づくり、カード織体験、しめ縄作り  
計8回・51人

## 刊行物

「民芸館だより」第29号・第30号

## 資料収集

有松絞り浴衣地（白影絞りはじめ4件）の購入、郷土玩具「アイヌ人形 男」、伊勢型紙、和紙、玩具資料「人形集成」、有松絞り浴衣地などの寄贈。令和2年3月末で収蔵資料数は12,093件 54,727点となりました。

## 資料・写真貸出

資料貸出1件／企画展「日本陶磁の源・陶邑窯－猿投窯の前に立ちはだかった巨大な壁－」（愛知県陶磁美術館）へ「須恵器 四耳壺 陶邑窯出土」はじめ6点

## 友の会

友の会通信発行3回（109～111号）

\*平戸橋桜まつり、研修旅行は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

## 民芸の森

年間入館者数 16,242人（元年度 16,978人）

イベント／観月会10/1、勘八峡紅葉ウオーキング11/15 体験ワークショップ／「季節の貼り絵タペストリー」ほか6回 森のアート展／「あとあとのいま」ほか2回

\*民俗芸能祭・森の手ざわりは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

豊田市は昭和26年（1951）3月1日に拳母町から拳母市となり（昭和34年豊田市に市名変更）、今年市制70周年を迎えました。今回は拳母市時代の資料「刺子半纏」を、開催中の企画展「植物文様の民芸」（会期：8月29日まで）の展示品から紹介します。

この刺子半纏は、背や衿に屋号や家紋などを白抜きに染め抜いた印半纏の一種で、消防団員が着用しました。火から肌を守るために水を吸収させて長く保てるよう、また、生地を丈夫にするために刺子を施しています。左の写真の半纏には鳶口と呼ばれる火消道具の絵柄が染められ、右の半纏は内側を表に出して展示している写真で、龍と虎が描かれています。このような内側が鮮やかな文様の刺子半纏は江戸時代からあり、着用した当時の火消たちは、鳶口などの火消道具で家屋を倒して類焼を防いだ後、煤けたり、破れるなどした半纏を颯爽と翻し、鮮やかな内側の絵柄が見えるように着用しました。

半纏の衿元には「拳母市第六分団」と組織を表す文字が染められています。昭和26年から昭和33年（1951-1958）の拳母市時代のもので、第六分団は今の豊田市消防本部がある長興寺一带の組織でした。（岩間千秋）



衿には「拳母市第六分団」「団員」の文字が、身頃には鳶口の文様が染められている。



内側の絵が見えるように展示したもの。虎は竹とともに描かれ、水と呼ぶ龍は虎よりも大きく、雷とともに描かれている。

## 紅葉ウィーク開催のお知らせ

11月13日（土）～11月28日（日）の民芸館と紅葉を楽しむ紅葉ウィークで、様々なイベントを開催します。

- ・茶室 勸桜亭の平日営業（月曜日は休業、通常営業は土日祝日）

時間：午前10時～午後4時 料金：一服400円（菓子付）

- ・民芸館・民芸の森・いこいの広場 3館スタンプラリー

すべてのスタンプを集めたら、民芸館ポストカード、または、民芸の森クリアファイルをプレゼント  
スタンプ設置場所：民芸館（第3民芸館）・民芸の森（田舎家）・平戸橋いこいの広場（受付）

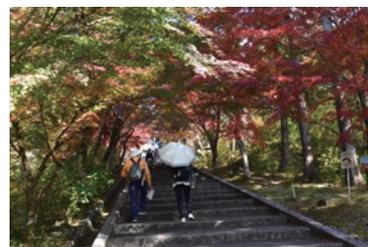
時間：午前9時～午後4時30分 入館料：無料

- ・勘八峡紅葉ウォーキング

民芸の森を発着点とし、いこいの広場・民芸館・前田公園・越戸ダムなど紅葉の名所である勘八峡全長約4kmを巡ります。

日時：11月20日（土）午前10時～午後1時（最終受付は午前11時30分）小雨決行（予定）

事前申込：不要 集合：民芸の森 参加：無料



### お問合せ 豊田市民芸館（豊田市生涯活躍部文化財課）

〒470-0331 愛知県豊田市平戸橋町波岩86-100

TEL 0565-45-4039 FAX 0565-46-2588

休館日 月曜日（祝日の場合は開館）

開館時間 午前9時～午後5時

入館料 無料（特別展は有料）

<http://www.mingeikan.toyota.aichi.jp/>

### 豊田市民芸の森

〒470-0331

豊田市平戸橋町石平60-1

TEL 0565-46-0001

